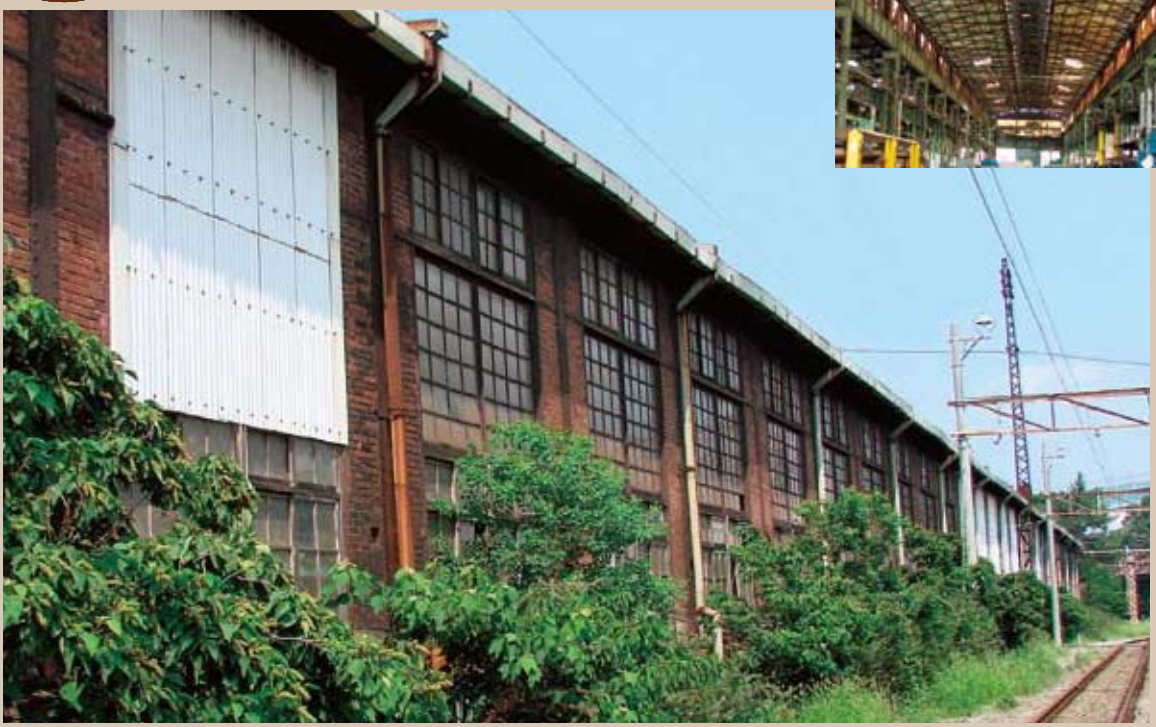
新日鉄ギャラリー
八幡製鉄所

One Scene



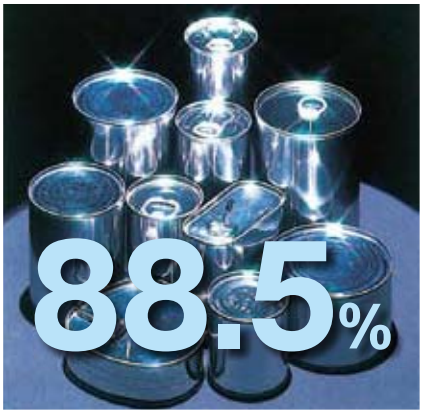
明治34年(1901年)、
機械の修繕、部材の製作加工工場として建設された旧修繕工場。
現存する鉄骨造建築物としては、日本で最も古いものの1つで、
100年以上経った現在も修理工場として利用されている。
鋼材には、当時技術導入したドイツの製鉄会社(GUTEHOFFNUNGSHÜTTE)
のロールマークが刻印されている。
経済産業省「近代化産業遺産」の認定施設。

明治43年当時

新日鉄の
ECO Products

軽くて、強くて、安全な　容器用鋼板

皆さんが手にする缶詰やコーヒー・ジュースなどの飲料缶、食料缶などスチール缶の素材となる鋼板は、食品容器として安全性、強度、軽量など品質の高さが求められます。

新日鉄では防錆用の錫を使わず高い耐食性を実現した「ティンフリースチール」や高い加工性をもつ「D-缶」などを開発してきました。

スチール缶は分別回収されて、製鉄所でさまざまな鉄鋼製品に生まれ変わります。2008年度の全国のスチール缶リサイクル率は、容器類の中でトップの88.5%でした(スチール缶リサイクル協会調べ)。